

## 令和2年度第3回理事会

### 4月18日リモート併用開催・札幌エルプラザ

令和2年度第3回理事会は、新型コロナ感染防止対策を十分に行った上で札幌エルプラザでの開催が予定されていた。しかし、札幌市内における感染拡大の兆候により、3月末から札幌への不要不急の往来自粛が発せられるとの情報を得て、3月25日の常任理事会でリモート併用(Zoom)会議に変更することとし、4月18日(日)13:00~15:20開催した。

提出議案は、第1号議案令和2年度を振り返って、第2号議案令和2年度事業報告、第3号議案令和2年度収支決算報告、第4号議案令和3年度に向けて、第5号議案令和3年度活動方針及び事業計画(案)、第6号議案令和3年度会計予算(案)、第7号議案備品台帳報告、第8号議案退会申請、第9号議案各種議題・その他が提案された。

開会の挨拶で小野会長は、「令和2年度は新型コロナ感染の影響で、様々な活動の中止を余儀なくされた。未だ状況は変わらないが、感染予防を考慮しながら令和3年度に向けて皆さんと活動を進めていきたい」と述べた。第1号議案で明田理事長は、令和2年度の道岳連活動を振り返り、コロナ禍で総会等は文書会議、アウトドアフェスティバル、各委員会行事のほとんどが中止や延期・縮小に追い込まれた。その中で指導委員会、普及委員会、競技委員会はガイドラインを遵守し開催、特に普及委員会は7月以降予定した全ての事業を実施した。今後の課題として、個人会員贈員に向けての工夫の必要性を上げた。第2号、第3号議案は、各専門委員会委員長から報告があり拍手で承認された。

第4号議案では、令和3年度に向けたJMSCAと道岳連の事業方針と運営に関し、スポーツライミングでは2020オリンピックでコロナ禍に負けず全員団結でメダル獲得を目指し、また2024オリンピックへ目標を設定し、ユース世代の発掘・育成・強化を図り選手のサポートと愛好者の底辺拡大を目指す。山岳遭難事故防止対策として「夏山リーダー制度」を積極的に全国展開する。

道岳連運営関係では、感染の終息が読めない状況だが、例年どおりの事業計画を策定。一同が集まるのが難しい中、オンライン会議を取り入れ加盟団体への情報発信・収集に努める。依然として財政的に厳しい状況下であり、新規事業の発掘に情報提供を。創立70周年記念事業実施に向けて実行委員会を立ち上げることなどを説明し、質疑を経て承認された。

第5号議案令和3年度活動方針及び事業計画(案)、第6号議案令和3年度会計予算(案)が事務局、各専門委員会委員長より提案され承認、普及委員会の昨年度計上金を上回る予算に拍手が送られた。第7号議案は事務局説明し承認。第8号議案退会届・退会申請書では、北広島山岳連盟、長万部山岳会、北海道トレイルランニングクラブの三団体が道岳連を退会した。

第9号議案各種議題・その他では、道岳連日高登山研修所及び日高ロッジについて、令和3年3月31日付けで日高町へ返還、HPからも利用の文言を削除したことが報告された。

会議の終了にあたって、今理事会にオンライン参加した9名の理事の皆さんから一言ずつ感想をいただき閉会した。

# 行事・各委員会事業報告

## 氷壁技術研修会 1/9 層雲峡 尾滝・パラグーフォール

日 時：令和3年1月9日(土) 8:30～ 層雲峡大函手前駐車帯集合

場 所：覆道上のNAKA滝(使用せず)、尾滝、パラグーフォール

参加者：13名(北見山岳会5名、斜里山岳会2名、千歳山岳会2名、ロビニア山岳会2名、個人会員2名)

スタッフ：5名(下山、明田、石井、M岸、D嶋)

概 要：

本年度の氷壁技術研修会は、コロナ禍のため例年行っていた1泊2日の日程を日帰りとし、定員を減らして募集しました。コロナ感染対策として、参加者、スタッフ共に1週間前からの健康チェック表を付けてもらうことを義務付けて開催しました。当日の参加者は13名(北見山岳会5、斜里山岳会2、ロビニア山岳会2、千歳山岳会2、個人会員2)、スタッフ5名の18名で、場所は大函手前の覆道上の「尾滝」と「パラグーフォール」の2カ所で行いました。

年末の寒波による大雪に加え、再度、木・金曜日に寒波が来るということで、前日まで道東・オホーツク周辺で大雪が降り、参加者、スタッフが集合できるか心配でしたが、道央道が一部通行止めになった影響で遅れて参加となった方以外は無事集合され、現地の気候も曇り空で、風もなく、特に寒くもない天気でした。

まず「尾滝」で、アイスクライミングの用具や手袋の種類、スクリュールハーケンの種類、着脱のためのギア、V字



パラグーフォール



「尾滝」前で参加者

スレッドの作り方、氷壁を登る時の理想的なクライミングフォームや途中でのテンションを掛けるときのやり方等の技術講習を行いました。

旭川山岳会のM岸、D嶋講師が「尾滝」に場所取りとしてトプロープを張ってもらっていたので、このトプロープで各々が交代でビレイを行いながら登りました。待っている方にはV字スレッドの実技講習を行いました。アイスクライミングの初心者の方は、やはりアイゼンに立つことが難しく、体を安定させてアックスを振ることが難しかった様ですが、1回目よりは2回目、2回目よりは3回目と回数を重ねると、徐々にフォームも上手になって安定するようになっていました。

「パラグーフォール」にもトプロープを張り、「尾滝」を登った方で「パラグーフォール」に挑戦したい方に登

ってもらいました。昨年度は氷が細かったので、下部しか登れませんでした、今回は上部の垂直感を体感してもらいました。

気がついた点として、最近のアックスは石突きの所に「返し」が付いており、登攀に使う手袋を付けた状態で「返し」に小指が密着するように握れるように調整することが大事です。これにより握力の消耗が少なくなりパンプすることを軽減できるのですが、「返し」に小指が密着してなかった方が数人いたので、気づいた方には教えてあげました。

アイスクライミングが怖いと言う人がいますが、アックスの打ち込んだ感覚やアイゼンに立つことに慣れることが必要です。何度か登りに行くと感覚を掴めると思いますので、アイスクライミングを続けていただければと思います。

報告者：講師 石井 昭彦

## 受講者感想

ロビニア山岳会 大 檀

今回、初めて研修会に参加させていただきました。

講師の方から、登り方やアイスクリュウの使い方などの技術を実際に見せていただいたことで、より分かりやすく動きのイメージが掴みやすく、たくさんの学びを得ることができました。また、なるほど！よし、やってみよう！という意欲に繋げることもできました。

今回の研修会の企画と運営にあたっては、コロナ感染対策など例年通りにはいかず、多くの苦勞と難しさがあったことと思います。そのような中、最善の対策とご配慮のもと、開催していただいたこと、道岳連指導委員会、海外登山委員会の皆様にご心より感謝いたします。ありがとうございます。ご指導と経験させていただいたことを、今後のアイスクライミングに生かしていきたいと思っております。

## 山岳スキー(氷雪)技術研修会 2/14 小喜茂別岳

1. 日 程 令和3年2月14日(日)
2. 会 場 小喜茂別岳
3. 参加者 受講生 5名 スタッフ4名 合計9名
4. 研修スケジュール

9:00 国道230号線黒川橋横の駐車場集合 9:05-15 開会式

ピットチェック・抜き足ターンの講習をしながら山頂へ 11:30 山頂着

パウダー滑走「ベーシックテクニック」  
「深雪滑走技術の実践」「初心者冬山スキーの実践」

13:00 駐車場解散

### 5. 報 告

例年1泊2日で開催されていましたが、今年は新型コロナ感染予防の観点から日帰り講習での開催となりました。

参加者は少数ではありましたが、新しい仲間が全道から集まりスキー講習の期待度を感じました。



小喜茂別岳山頂



そんな中でスキー講習は始まりました。日帰りですくからの参加者がいますので、さくつと登れて滑りも楽しめる小喜茂別岳を会場にしました。

2時間程登り山頂近くでやっと程よい斜面に辿り着き、ピットチェックの説明、やり方を中心に短時間だと思っていまいましたが、講師の熱心さに帰りの時間が遅れると心配するほどだが、大切なことは手を抜かずにできて良かった。

天候にも恵まれ全員山頂へ。下りもSAJのスキー講師が居るので今まであまりできなかった深雪滑りの講習ができて有意義な講習会となった。新しいスタッフでの初めての開催であり不安の中での始まりでしたが、皆手応え感じ終了時には今後の活動に自信が付きました。今回は簡単な講習でしたが、来年度は今までのような講習ができる事を期待します。

参加スタッフ 西嶋 克己 塚本 圭一 菅井 和史 山崎 千種

## 受講者感想

斜里山岳会 江口

春のように暖かく、風もほとんどないという条件の下、駐車場からスキーを担いで国道230号線を10分程歩き、エントリーポイントへ。

国道脇の雪壁をよじ登ってスキーを装着、広場にて全員で準備運動し、2班に分かれ登行開始。前日からの暖気のせいで朝の雪は表面が溶け、バリバリの「もなか」状態。復路の滑降に不安がよぎるが今から考えても仕方がない。登り初めて約1時間半、ピットチェックの練習、このような機会が無ければすっかり忘れてしまうものだと思ふ。コンプレッションテストの結果、雪崩のリスクは低いと判断。各々が掘った大穴を埋め戻し、山頂に向け再度登行開始。

途中、キックターンの練習をしながら全員が無事登頂。霞がかつた空に浮かび上がる尻別岳はとても綺麗でした。心配していた帰りの「もなか雪」は日中のプラス気温で解消され、ベタ雪ながらもゲレンデのような快適な滑降を楽しめました。

どうぞよろしくお願いいたします。



ピットチェック

## 受講者感想

千歳山岳会 榎間

今回、初めて研修会に参加しました。登る体力には不安はありませんでしたが、スキーの技術はなく、参加者の皆さんに迷惑をかけてしまうのではないかと不安を持ちつつの参加でした。

当日は風もなく、穏やかな天候の中、景色を眺めながら楽しく登ることができました。今回の研修では、雪崩に遭わないための事前確認や1メートルほど掘ってスコップの叩き方を3段階に変え、層のズレを確認し、雪崩に巻き込まれた時の対処法など基本を学ばせていただきました。

苦手としているスキーでは、安全に滑るためのスピードコントロールや怖がらず「ヤッホー！」と叫びながら滑りを楽しむことの大切さを教えていただきました。

研修会には、道東や道北など遠方から参加の方もいらっしや、普段、お会いする機会のない方々と交流することができ、楽しい時間を過ごすことができました。また、このような機会があれば是非参加させていただきたいと思ひます。

最後に、このような貴重な機会を作ってくださいました道岳連並びに指導員の皆様に感謝いたします。

## 冬山講習会 Part 1 2/7 室蘭岳(冬コース)

2020年度 冬山講習会 Part 1 室蘭岳 911m 冬コース

◎日 時 2021年2月7日(日)

◎集合場所 室蘭市だんパラ公園駐車場

◎参加者 一般参加者4名 個人会員10名 山岳会4名 スタッフ4名  
合計22名(男19名 女3名)

### 【スキー班(11名)報告】

冬晴れの中9時に室蘭市だんパラ公園駐車場に集合、参加者の検温後開会式を行う。

参加者の自己紹介に続いて、橋本リーダーから冬山一般注意事項(雪崩)と、アバランチ・トランシーバーの使用方法についての講習を受け、スキー班、スノーシュー班のグループに分かれて出発する。

15分程で白鳥ヒュッテに到着、ここで入山届と各自装備の再点検をし、頂上を目指して9時45分に登山開始。風はあったが視界は良く、2回ほど休んで頂上に11時20分に到着。やはり今年は雪が多くて、室蘭岳の看板がかわいそうに雪の下になっていました。

スノーシュー班が登ってくるまで時間があったので、頂上からの東側斜面を滑ることに、全員極上のパウダースノーを満喫して滑走し下った所で、「もう一回!」のかけ声に、皆さん「賛成!」。再び登り返して二回も滑って大満足でした

頂上でスノーシュー班と合流後、美しい冬山のパノラマを見ながら休憩タイム。全員で記念写真を撮ってから13時に下山開始する。白鳥ヒュッテまでは30分程で滑り下り、ここでスノーシュー班が来るまで待機する。

合流した後この近くにある、すだれ滝まで全員で散策した後、駐車場に戻って15時から閉会式、いつもの一本締めで解散となりました。

普及委員会 細木 輝雄 記



集合後の検温



室蘭岳頂上

## 【スノーシュー班（11名）報告】

コロナウイルス対策で例年は一泊二日の冬山講習会(基本編)ですが、今年は日帰り講習会で実施することになり、旭川・岩見沢・札幌から22名の参加者が室蘭岳に集まりました

スキー班の後で出発し白鳥ヒュッテ前で、弱層テスト(ショベルコンプレッションテスト)、シルバーコンパスの使い方を講習し冬コースの登りに入る。天気に恵まれゆっくりペースで山頂へ。斜面登行、林間の通過、急登などを楽しみ12時30分頂上に到着した。東斜面でスキー班が登り返しを楽しんでいた。展望もよく、風も無くそれぞれに昼食をとり、13時に下山開始する。

最後に簾の滝を見て駐車場で閉会式をして解散する。今回の反省点として、基本編は一泊二日で座学研修をしていきたいと思いました。

普及委員長 横山 温 記 参加スタッフ 横山 温 細木 輝雄 橋本 一郎 横山 泰子



スノーシュー班

### 受講者感想

個人会員 中根

冬山スキーは恐怖心が先行して楽しめないことが多いので、少しでも恐怖心が軽減できればと講習会に参加させていただきました。山頂に到着して東斜面を1本目、ザック背負ってシールも剥がさずボーゲンで斜面削りながら降りましたが、楽しそうに滑走していく方々を見送るとワクワクしてきます。

登り返して2本目は空身でシールを外し、先行してくださった方の後をついて行くと、驚くほど恐怖心なく滑ることができました。林間を滑って下山するのは恐怖心との戦いでしたが、山頂で楽しく滑れたことを思い出しながら、また山スキーに行きたいと思えました。楽しかった思いを次回に繋げて、楽しく安全に山スキーができるよう学び成長したいと思います。

最後に、貴重な講習会を企画してくだる北海道山岳連盟の皆様、ご指導いただいている山岳会の皆様に深く感謝いたします。またの講習会でもどうぞ宜しくお願いいたします。

### 受講者感想

札幌市（一般参加） 藤 森

今回の「冬山講習会 Part1(基本編)」には知人からの誘いで参加いたしました。室蘭岳(鷲別岳)は、それほど急峻ではないとのことから初めての挑戦することといたしました。申込みはしたものの、私、日頃の運動不足から、当日まで不安で一杯でした。

当日は、登りは何とか登頂し晴天の山頂から室蘭市街や周辺の山々の絶景を満喫で感激いたしました。(横山さんの私へのご配慮で、超ゆっくりの速度で登って頂き、他の方には大変ご迷惑だったかと恐縮しております。)

下山は途中ヒュッテで「簾の滝」を見るとのことでしたが、両太ももの筋肉疲労が限界のため、辞退するつもりでしたが、息子から叱咤され、頑張っていくことにしました。滝はこの時期にしか見ることができない情景で「凄い」の一言でした。

今回の講習会で教えて頂いた「冬山登山の基礎事項」は初めて聞いた内容で良い経験になりました。特に興味深かったのは、地図と磁石を使って進行方向の確認をする方法の説明でした。その場では理解できなかったもので、帰宅後、ネットで調べましたがやはり、実際に自分で使ってみないと



身に付かないようです。

それと弱層テストも重要な事項と理解しましたが、これも実際に自分で何度か体験しないと習得できないと感じました。今後も安全に山登りをするに当って、学ばなければならないことが多いことを実感した次第です。

今回の登山で驚いたことのひとつに天気良かったとは言え、この時期の気温で「Tシャツ姿」で登られた橋本さんにはびっくりしました。

これからも、登山を楽しく続けていきたいと思っています。そのためには日ごろから体力維持と装備品の準備が必要と痛感しました。

## 冬山講習会 Part 2 2/28 イチャンコッペ山

日 時 2021年2月28日(日曜日) 8時30分集合

集合場所 イチャンコッペ山登山口横 支笏湖展望台駐車場

参加者 一般参加者5人 個人会員6名 山岳会3名 スタッフ6名  
合計20名(男性16名 女性3名)

コースタイム

9:00 登山口発→10:03 幌平分岐→10:43 7合目(弱層テスト実施)→11:39 8合目→12:00 山頂着  
(休憩40分)→12:51 8合目→13:44 幌平山分岐→14:05 幌平山→14:40 登山口着

快晴の中、8時前には展望台駐車場が満車になり、人気のあるイチャンコッペ山である。何とか参加者全員が駐車でき、開催の挨拶を小野会長より頂き、コロナ禍で大変であるが北海道も比較的落ち着きを取り戻し、発生者も減少しており今日は皆さん大いに楽しんで頂きたいとの一言がありました。

今回はスノーシュー使用の予定でしたが、雪質と登り始めがめが急登なのでCLよりアイゼンで登ることにした。個人会員の澤村さんよりHAREMAMORIを東京気象神社で祈祷して頂いたものを参加者全員に配布され、安全登山を約束された。ありがとうございます。

各スタッフの挨拶、橋本リーダーより雪崩トランシーバーのグループチェック後、アイゼンを嵌め登山口を予定時間の9時にスタートした。イチャンコッペ登山口からEVで一気に250mの急登を登らなければならず、ペースを下げて登る。前日の雪で歩きにくい急登のアイゼン訓練を行いながら徐々に高度を上げていくと風不死岳・恵庭岳が綺麗に見え、皆さんは元気を取り戻しながら数回の休憩を入れ、1時間ほどで幌平山分岐を通過した。ここからは多少のアップダウンがあるもルートもしっかりしており登山者も多く(我々も含め60名以上)1級国道並みのトレースがあり楽をさせて頂いた。7合目付近で橋本リーダーよりプロブ取り扱い及び使用方法の実践をした後、弱層テストを行い雪崩発生するメカニズムを伝達されていた。参加者も周辺に集まり、弱層の実施方法と雪質の関係を観察し実感されていた。

その後はアイゼンを外し、ニセピーク(8合目)の急登をキックステップで登る訓練をするも、慣れてないせいか苦労しながら登り切り、バックベアリングすると支笏湖周辺(紋別岳、樽前山、恵庭岳、漁岳、空沼岳等)の山々が目に飛び込み、感動しており写真に収めていた。しかし、その先のイ



HAREMAMORI



恵庭岳

チャンコッペ山は遠くに見え、アップダウンもあり天候に恵まれ風も殆ど無く皆さん元気よく登り登山口より3時間ほどで山頂到着した時は各々登頂気分浸っていた。

昼食の後、イチャンコッペ山の冬用標識を入れ全員で記念撮影し下山を開始した。下りは皆さん元気よく、10分程で8合目を通過し1時間程で幌平山分岐に到着すると、予定より早く降りてしまうので参加者より幌平山に行ってみたいとの意見あり、リーダーで相談した結果、幌平山組(橋本、立花)

と下山組(小野、細木)に分けて行動した。幌平山の登りも急登だが、皆さん元気よく30分程で山頂に到着し、目の前に広がる支笏湖と恵庭岳に圧倒され各々写真に収めていた。幌平山からの激坂をツボ足で下山し、尻滑りを楽しんでいる人も居り和気あいあいとし良い雰囲気であった。

全員無事到着し15時より閉会の挨拶を行い、最後に細木さんの一本締めで冬山講習会を終えた。皆さんには家に到着するまでが登山ですから、気をつけて帰るようお願いし各々帰路についた。

普及委員会 立花 昇 記

参加スタッフ 小野 倫夫会長、横山 温、細木 輝雄、橋本 一郎、立花 昇、横山 泰子

## 受講者感想

冬期講習会 Part 1 の室蘭岳に参加していた中根さんにお誘いを受け、参加させていただきました。当日は天気も良く、風不死岳・樽前山・紋別岳・恵庭岳など支笏湖周辺の山もよく見渡すことができました。

普段の冬山はスキーのことが多いので、アイゼン歩行の良い練習になり、またアイゼンを外した後のキックステップなど、いい経験になりました。次回も都合が良ければぜひ参加したいと思います。ありがとうございました。



イチャンコッペ山山頂

## 冬山講習会 Part 3 3/27-28 三段山・前十勝カバワラ尾根

冬山講習会 Part 3 三段山及び前十勝カバワラ尾根 参加者 17名 スタッフ 6名 計 23名  
3/27 白銀荘駐車場から三段山 3/28 白銀荘駐車場から前十勝カバワラ尾根

### 【スノーシュー班報告】

27日 白銀荘駐車場集合 10時 → 開講式を行い 10時20分スタート → 11時45分二段通過 → 12時



50分山頂到着→13時35分山頂発→13時55分二段通過→14時10分一段通過→15時白銀荘到着→17時白銀荘で雪崩トランシーバー講習、夕食、懇親会→22時就寝

28日 朝食7時45分出発→9時20分1330m通過→9時50分1650m到達 スキー・ボード班  
スノーシュー班2名前十勝11時着→11時20分1650m到着→12時42分白銀荘到着  
駐車場で記念撮影後13時閉講式後現地解散とした。

(報告) 土曜日は無風快晴状態であったが、気温が下がり雪面はクラスト、さほど問題は無く快適に一段、二段を通過し汗が吹き出るほどであった。3時間を切る程で山頂に到着しました。山頂からは富良野岳・上ホロ・十勝岳がブルースカイに映え綺麗であった。

前十勝の火口噴煙が異常に多く不気味さを感じるほどであったが、皆さんが楽しんでくれ予定時間通り全員が安全に白銀荘に到着し、講習会、夕食、懇親会後は夢の中にいた。

日曜日にも天気に恵まれた絶好の登山日和でした。スキー・ボード班は1650m付近からカバワラ尾根・千春沢を複数回登り返してスキーを楽しんでいた。

スノーシュー班はアイゼン歩行をしながら、1750mまでが2名と前十勝2名で元気に山行を楽しんでくれ、二日間天気に恵まれ最高でした。

普及委員会 立花 昇 記

参加スタッフ 小野 倫夫会長、横山 温、細木 輝雄、橋本 一郎、立花 昇、横山 泰子



白銀荘駐車場上部で集合写真

#### 【スキー班報告】

27日 10:00 白銀荘駐車場→開講式→10:30 登山口発→12:50 三段山頂上着(休憩40分)→14:40 白銀荘駐車場着→16:30 座学講習 →17:00 夕食

今回の講習会の参加者は総勢23名、この時期、白銀荘は温泉とバックカントリーの登山基地で駐車場はほぼ満車状態。天気予報通り雲一つ無い快晴で、開会式後各班に分かれ装備点検、ビーコンのチェック後、三段山を目指してスキー班より出発する。

雪は締まっていて登りやすいが、森林帯を過ぎた頃から更に固くなってきたのでスキーアイゼンを付けて高度を稼ぐ。頂上手前アイスバーン急斜面を注意して登ると、360度視界が開けた三段山頂上に到着。風もなく素晴らしい山頂からの眺めを楽しみながらゆっくり昼食タイム。

スノーシュー班と合流後、十勝岳をバックに記念



快晴の三段山頂上

写真を撮ってから下山開始する。クラストした斜面を慎重に下った所でホッとして休憩、登山口に全員無事到着する。疲れた体のリフレッシュにゆっくり温泉につかり、夕飯前に橋本リーダーから雪崩についての雑学で脳を活性化した後、夕食となりました。

28日 出発 7:30→ 前十勝カバワラ尾根上 10:00→ 白銀荘駐車場着 12:30→ 解散 13:00

本日も朝から快晴の中、十勝岳からの噴煙が何時もより激しく吹き上がっていて、白銀荘駐車場から前十勝カバワラ尾根に向けて出発する。

森林帯を横切り、まだ雪で詰まった沢を渡ってクラスト気味のカバワラ尾根に取付き、1300m 付近で休憩する。そこから少し登った所でスキーアイゼンを付けて登り、1500m 付近で横に走る千春沢を偵察すると、絶好のコンディション！スキー、スノーボードの達人は、二度、三度と登り返してメチャメチャ上手な滑りで十分満喫、特に小野会長の素晴らしい滑りには一同脱帽でした。

春スキーを思う存分楽しんで下山後、午後1時に閉講式後解散となりました。

報告者 普及委員会 細木 輝雄 記

## 受講者感想

このたびは三段山、前十勝の冬山講習会に参加させていただきありがとうございました。

昨年の夏山講習会 Part 1 に参加させていただき、白銀荘二階のテラスでバーベキューをしていた際に三段山を見ていたら、泰子さんから「冬は三段山をスキーで滑るんだよ」とお声がけいただきました。当時、夏山登山も始めたばかりで、冬に山に登るということも全く想像できておらず、「ぜひ行きたいです!」と答えたものの、本当に行けるのか半信半疑でした。

昨年末にスキー道具一式を揃え、山スキーを始めました。ぜひあのとき見た三段山や前十勝にスキーで行ってみたいと思い、このたび参加申込みをさせていただきました、

計画通り1日目は三段山を登りました。天候がよくずっと太陽が出ていて、登っているときはとても暑かったです。しかし、振り返ると最高の景色が広がっていて大変やる気と元気が出ました。

途中から表面がガリガリになり、スキーアイゼンを装着して登りました。キックターンがうまくできず、ガリガリの斜面の上で転んでしまったり、進もうとしてもうまく進めなかったりしましたが、周囲の皆さんにアドバイスいただいて、何とか最後まで登ることができました。三段山山頂からの景色は最高でした。

下りは、荷物を背負ったままスキーを滑ることに慣れておらず、バランスを崩したりして怖さもありましたが、自分なりに最後まで楽しく滑ることができました。

2日目は前十勝を1500m 付近まで登りました。千春沢の方に行くと最高の雪質の斜面が待って



千春沢を滑走

ました。すごく良い状態だったので、1度滑って登り返してもう1本滑りました。とても気持ち良く滑ることができました。皆さん大変上手に滑っており、私も訓練していつか皆さんみたいに滑らかに滑ることができるようになりたいなと思いました。

スキーだと下りは一瞬なので、帰りはなごり惜しい気持ちになりました。今回2日間とも天候に恵まれ、最高の山行と

なりました。これは、参加者の皆さまの日頃の行いが良かったためだと思いますので、皆様に感謝しております。

また、1日目の夜の懇親会でも参加者の皆様とお話しできてとても楽しかったです。色々な山に行ったお話しをお聞きしたり、今後の目標などお聞きしたりして、大変刺激をいただきました。

このたび私たちが安全に登山を楽しめるようにご配慮いただきましたスタッフのみなさま、サポートしていただいた参加者のみなさまのおかげで、怪我なく楽しい山行となりました。本当にありがとうございました。

また次の山行でみなさまとお会いできるのを楽しみにしています。 H. H

## 受講者感想

両日とも最高のお天気となり、無事終了しました。晴天・風穏やかとなれば、つい気持ちも弾みます。しかし、そこは冬山、数日前からの天候、雪の降り具合、夜間の最低気温、出発の時間帯による斜面状況の変化等々、ベテランスタッフの皆さんも行ってみなければ分からないので…

山はいつもそうですが、あらゆる場面に对应できる装備と心構えに手を抜いてはいけなないと、再度心を引き締めます。危険を感じたら無理をしないのはいうまでもありません。美しい斜面を制御不能で下りたくは無いです。スノーシュー・アイゼンに足を引っかけて転がり落ちるのは遠慮したいものです。

個人的な話になりますが、道岳連講習会に参加して十数年、アラフィーだった私も気が付けば60オーバー。その間、ほぼどの山の会にも所属せず、講習会での情報と人脈を頼りに山登りを続けてきました。おかげさまで事故もケガも無くやって来れました。講習会で繰り返し話を聞き、その都度初心に戻って若かりし頃の自分を振り返ることに意義を感じずこの頃です。

当たり前ですが、山は無事帰宅して終了、加えて「ああ～疲れた」とは絶対に言わないことだそうです。

間もなく夏山シーズンが始まります。近年、気象が異常な状態になりつつあるのは誰しもが感じています。万全の装備で自分の力量を正しく自覚し、止める・引き返すを躊躇しないことを心がけ、楽しい登山をしたいものです。

講習会は、山の基本を再確認する良い機会ととらえ、次回からも参加したいと思っています。皆様、お疲れ様でした。ありがとうございました。 H市 S. Y.

## 春山講習会 Part 1 4/9-11 北八甲田 大岳

春山講習会 Part 1 4月9日(金)～11日(日)

北八甲田 大岳 (1584m) 残雪スキー・スノーシュー講習会

参加者 一般3名、個人会員4名、山岳会3名、スタッフ5名 計15名

### 【行動概要】

4月8日(木)札幌 21:00 発

4月9日(金)函館・津軽海峡フェリーターミナル集合 2:00⇒フェリー出航 3:10⇒青森港着 6:50  
⇒青森魚菜センター8:00 のつけ丼(朝食)  
八甲田ロープウェイ駅 9:00⇒ロープウェイ山頂駅 10:30⇒ダイレクトコース滑走  
⇒酸ヶ湯温泉旅館投宿 15:30

4月10日(土)酸ヶ湯温泉旅館 8:40⇒入山 大岳環状ルート⇒大岳避難小屋着 12:15⇒大岳山頂  
13:20⇒下山 15:30⇒酸ヶ湯温泉旅館着 16:00 投宿

4月11日(日)酸ヶ湯温泉旅館発 7:40⇒銅像ルートに配車⇒ロープウェイ駅から銅像ルートへ  
9:50 滑走⇒前嶽 10:50⇒銅像ルート銅像茶屋着 12:50⇒青森港・津軽海峡フェリー  
ターミナル・フェリー出航 14:20⇒函館着 18:30 解散



## 【行動記録】

4月9日(金) … 青森港・津軽海峡フェリー下船後、青森・魚菜センターでのつけ井(朝食)を食した。八甲田はR103を山麓へ進むにつれて、降雪と風雪になった。ロープウェイ駐車場はベタ雪に覆れていた。11:00のロープウェイ(ゴンドラ)で頂駅に降り立つ。気温 $-10^{\circ}\text{C}$ 、風速 $25\text{m/s}$ を記録し、我らのロープウェイ使用後、運行は停止になった。

最後のロープウェイで乗車下山する者、そのまま山中を降りる者に分かれた。ダイレクトコース滑走に挑んだが、スキー滑走どころではなかった。強風にあおられ、吹き付けるベタ雪は顔面にこびりつく、メガネにこびりつき、視界が無くなる、腐れ雪、凍り雪、スキーが刺さる。表示を頼りに、足探り、手探り、やっとの思いで下山した。

14:00には、酸ヶ湯温泉旅館に入った。旅館に個人会員の長瀬さんよりスポーツドリンクとチョコバーの差し入れが届いていた。明日の行動食として活用できるので、全員、感謝、感謝です。



風雪の八甲田山ダイレクトコース



酸ヶ湯温泉旅館

4月10日(土) … 天候は回復、気温は $0\sim 1^{\circ}\text{C}$ 、ほぼ無風、時々陽射しがある。平地はプラス気温の天気予報だった。酸ヶ湯温泉旅館から入山する大岳環状ルートに取り付いた。通常利用されているルートから南西寄りへコース取りをした。急峻な登りを2カ所乗り越え、大岳の裾を大きくトラバースして沢沿いのルートに合流した。大岳避難小屋に12:20到着、先客が10~15人程、小屋は満席。我ら、おじさん・おばさん4人は小屋に残留し休憩。他はツボ足アイゼンで大岳山頂1584mへ往復40~50分の行程。このときは曇り、山頂部はガスって展望はあまり良くなかった。

下りはスノーシュー3人、スノーシュー引率1人、他はスキーで滑走、宮様ルートを通った。陽が差し、広い斜面の白と青空が美しい。15:30酸ヶ湯温泉旅館、取付きの入山口に到着。スノーシュー班はすでに30分以上前に到着していた。昨日の荒天と比べて、この日は穏やかで広い春山を楽しんだ。

4月11日(日) … 早出して、ロープウェイを使用して銅像ルート滑走をもくろむ。下山口、銅像茶屋に配車後、ロープウェイ駅からゴンドラ乗車、山頂駅9:45。山頂部表示「9:00青空、晴天、 $-3^{\circ}\text{C}$ 、北西の風風速 $4\text{m/s}$ 以下、積雪 $200\text{cm}$ 」、滑走開始9:50、銅像ルートへ降りる。

前嶽1252mは、スノーシュー3人と積極的な3人がシートラーゲンで計6人が登頂した。さぞかし、鮮やかに展望は良かった事だろう。春の斜面を銅像茶屋へと滑走し、10:50下山着。14:30には青森港・津軽海峡フェリーの人になり、ほとんど観光気分だった。

普及委員会 橋本 一郎 記

参加スタッフ 小野 倫夫会長、横山 温、橋本 一郎、立花 昇、横山 泰子

## 受講者感想

函館山の会 大坪

函館山の会所属の大坪です。今回、スキーで参加しました。

以前、知り合いから「函館から八甲田山は近く、日高山脈や大雪山よりも行きやすいよ」と言われ「確かに。近いうちに行こう」と思いつつも、海を渡るのはハードルが高く、なかなか行けずにおりました。

この度、道岳連のHPで八甲田山ツアーを知り、喜んで参加させて頂きました。一日目は生憎の吹雪でしたが、八甲田ロープウェイ山頂からのダイナミックコースを初体験できました。二日目は酸ヶ湯から大岳への登攀とスキー滑走を堪能しました。



大岳を目指す

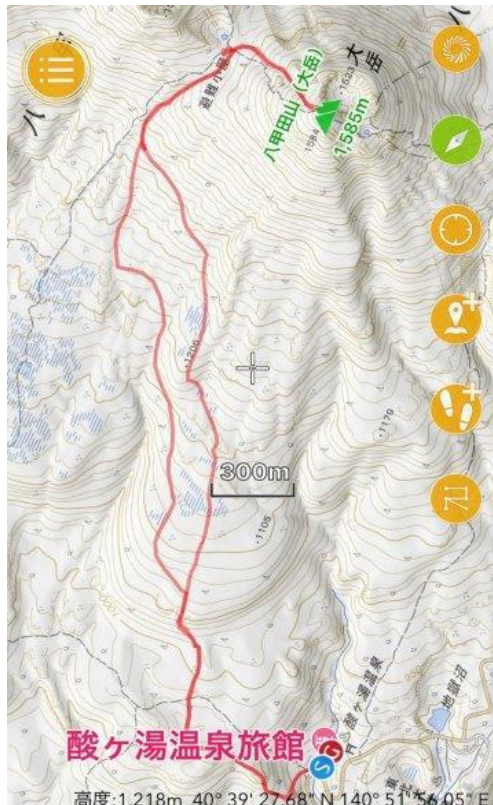
最終日は、予定を変更して八甲田ロープウェイ山頂から前嶽を経ての銅像ルートを滑走しました。二日目と三日目は天気が良く、大岳、井戸岳、前嶽がよく見え素晴らしい景色でした。ツアーの三日間は、あこがれの八甲田スキーを存分に楽しみ、素晴らしい体験をさせて頂きました。

小野会長並びにリーダーの横山ご夫妻、橋本様、立花様にはお世話になりました。本当にありがとうございました。

## 受講者感想

個人会員 高杉

深夜2時、函館・津軽海峡フェリーターミナル集合。スタッフ車4台に班分けされ、わくわくして準備をした荷物を積み込みフェリーに乗船しました。青森上陸までの約3時間半、それぞれ仮眠を取りながら到着を待ちます。



二日目の大岳環状ルート

上陸して山に向かう前に、まずは腹ごしらえ！朝食は、青森魚菜センターで「のっけ丼」です。市場内にあるいくつもの出店から、まぐろの食べ比べやホタテ、ウニやいくら等々新鮮な海鮮を自由に選び、オリジナル海鮮丼を完成させて贅沢な朝食です。

初日 … 八甲田山ロープウェイを利用した「フォレストコース」へ向かいます。しかし、乗り場に到着する頃には天候はどんどん悪くなり、ロープウェイも運休になるかも？と不安の中乗車しました。とりあえず乗車しましたが、山頂駅に着く頃には運休が決まりスノーシュー班はそのままロープウェイで下山と判断し、スキー班はダイレクトコースへ変更しての下山です。何とか全員無事に滑降してきました。こんな時は早めに宿泊先の酸ヶ湯温泉へ。

2日目 … 雲は残っていましたが、午後からは回復予報を信じて八甲田山大岳を目指し出発です。

前日の降雪のおかげで雪が心地よく、スノーシュー班の私はとても快適に歩けました。樹や樹木についた雪がとてもきれいで、時々ぞく青空もどんどん広がってきま



した。何度も立ち止まり撮影タイムとなります。避難小屋到着の頃には残念ながら雲が多くなりましたが、何とか大岳山頂に到着しました。避難小屋まで戻り、食事や休憩をして下山に時間がかかるスノーシュー班はスキー班より先に下山開始です。

下山すると晴れる・・・よくある事ですが、今回も下山中に振り返ると青空に映える雪の大岳がドーンと見えました。そんな中、順調に歩き続けて好調のスノーシュー班は、スキー班よりも先に酸ヶ湯温泉に到着しました。メンバーで思わず「勝った～！」と叫びました。

最終日 … スケジュールでは弘前公園で桜見学となっていたのですが、急遽予定を変更してもう一日山を楽しむことになりました。

八甲田山前嶽&銅像コースを歩くことになりました。帰りのフェリーの時間を考え、1便のロープウェイに乗るため、早めに温泉を出発して乗り場に並びました。日曜日の快晴とあって、地元や周辺からのスキーヤーであつという間に長蛇の列になってしまいました。通常よりも15分早く1便が出発して、運行間隔も5分短縮して本数を増やしていました。全員が山頂駅に揃ったのは3便が到着してからでした。フェリーの時間を気にしながら、特にスノーシュー班は遅れてはいけないと頑張って歩きました。



ロープウェイを利用し銅像ルート・前嶽経由で下山

この日は、スタートから素晴らしいお天気で、遠くに岩木山、振り返れば前日の大岳が見えました。最後の最後まで八甲田山を楽しんだことは言うまでもありません。しっかりとこの八甲田山を目に焼き付けて、フェリー乗り場に向かいます。フェリーにも余裕で間に合い、穏やかな天候のおかげで快適な乗り心地でした。

スキーもスノーシューも楽しめる講習会の企画に、スタッフの方々にはお世話になりました。初日の悪天候も、最終日のスケジュールの変更もしっかりと調整していただいたおかげで、慌てることなく講習会を終えることができました。山行中の皆様との楽しい時間や宿泊先での更に楽しい夕食&懇親会に湯治で有名な温泉に十分に癒やされ、満たされました。

今まで参加してきた講習会で学んだ悪天候での防寒等の対処、残雪期の装備や急斜面の歩き方、混在した雪質の対処を生かすことができました。今後も安全登山に心がけ山を楽しんでいこうと思います。

## 第7回ボルダリングユース日本選手権派遣選手選考会 3/7 グラビティリサーチ札幌

### ボルダリングユース選考会を振り返って

令和3年3月7日、グラビティリサーチ札幌で、第7回ボルダリングユース日本選手権派遣選手選考会を開催しました。

当初は、昨年11月15日から延期していたスポーツライミング北海道選手権ボルダリング大会として美唄市体育センターで開催する計画でしたが、新型コロナウイルス感染拡大に対する特別警



戒期間がこの日まで延長され、警戒ステージもⅢのまま推移していたので、北海道選手権として多くの人数を集めて開催することは断念しました。

しかし、全国大会に派遣する選手を選抜しなければならないことから、北海道選手権リード競技やその他過去の大会成績により第1次選考を行い、対象人数を16名に絞った上で、感染防止に十分注意して短時間で選考会を行うことになりました。

この選考会も当初は美唄市体育センターで開催する予定でしたが、美唄市が災害級の雪害とそれに続く断水に見舞われ、この地で選考会を開催できるような状況でなかったため、開催まで1週間を切った中で急遽グラビティリサーチ札幌に会場を変更して、何とか無事に選考会を行うことができました。急なお願いにも関わらず快く会場を貸してくださいましたグラビティリサーチ札幌店長様をはじめ関係者の皆様に、この場を借りて厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。

選考会の結果は別紙リザルトのとおりです。男子1位の坂本大河選手は第6回ボルダリングユース日本選手権大会で男子ジュニア2位入賞した選手です。北海道選手権リード競技においても1位で、今回の選考会でも圧倒的な力を見せました。ユースBの工藤賢悟選手(2位)、荒川翔哉(3位)斉藤鈴太選手(4位)が、坂本選手の後を追いかけるように力を伸ばしてきており今後が楽しみです。1位の坂本選手はJMSCA推薦枠での全国出場となりますので、今回の選考会では、男子は4位までが北海道山岳連盟としての派遣となります。

女子1位の吉田ゆな選手、同2位の上原子音羽選手はともに北海道選手権リード競技においてもそれぞれ同じ順位で入賞しており、2人とも安定した力を見せています。女子もユースB世代の選手が台頭してきており、小鍛冶菜花選手が3位に入りました。女子については、この3名を北海道山岳連盟として全国大会に派遣します。

なお、北海道選手権ボルダリング競技が中止になったため、リード競技の順位がそのまま北海道選手権の総合順位となり、男子ユース優勝の坂本大河選手と女子ユース優勝の吉田ゆな選手には北海道知事賞が、同じく準優勝の藤原稜平選手と上原子音羽選手には北海道教育長賞が授与されました。

北海道代表選手として全国大会に出場される選手の皆さんは、大きな舞台で存分に力を発揮できるよう、けがや新型コロナウイルス感染症に十分注意しながら、しっかり練習に励んで下さい。

北海道山岳連盟競技委員長 山納 秀俊

## 選考会成績

### 【女子】

- 1位 吉田 ゆな YA 派遣選手
- 2位 上原子 音羽 YA 派遣選手
- 3位 小鍛冶 菜花 YB 派遣選手

### 【男子】

- 1位 坂本 大河 J JMSCA 枠
- 2位 工藤 賢悟 YB 派遣選手
- 3位 荒川 翔哉 YB 派遣選手
- 4位 斉藤 鈴太 YB 派遣選手



# 第9回リードユース日本選手権派遣選手選考会 4/11 美唄市体育センター

## 第9回リードユース日本選手権派遣選手選考会報告

令和3年4月11日、美唄市体育センターで、第9回リードユース日本選手権派遣選手選考会を開催しました。

コロナ禍の中での大会ということで、競技中以外常時マスク着用で声援も自粛、こまめな消毒や換気、無観客にして選手も午前と午後で入れ替えて人数を絞り、ソーシャルディスタンスを確保するなど、感染防止対策を徹底しての大会運営になりました。

参加者はA選手登録可能な者のみとしましたが、午前の部(ユースC/D、ユース女子)が22名、午後の部が17名(ユース男子)と思った以上に人数が集まり、参加申込み締切り前日に定員になり募集を締め切ったくらいでした。全国大会さらに世界大会を目指すA登録選手がこんなにもいるということで、非常に頼もしく感じられます。

選考会の結果は別紙リザルトのとおりです。男子1位の坂本大河選手は3月のボルダリングユース選考会でも1位だった選手です。現在、道内では圧倒的な強さを見せています。2位にはユースBの若宮選手が入りました。この世代は実力伯仲の強い選手が多く、切磋琢磨しながら伸びていて今後の非常に楽しみです。3位は昨年10月の北海道選手権でも好成績を収めた藤原穂平選手、4位は坂本選手とともに国体少年種別で活躍してきた竹内悠真選手でした。JMSCA推薦の坂本選手を含め、以上4人が男子の代表選手になります。

女子1位の上原子音羽選手は3月のボルダリングユース選考会でも2位で安定した力を見せています。2位の酒井雪羽選手はボルダリング選考会では、5位で惜しくも全国出場を逃しましたが、今回のリードで見事雪辱を果たしました。3位の吉田ゆな選手は1クリップ目を飛ばしてしまうという痛恨のミス。二つ目の支点にクリップしたところで競技終了となり1本目のルートは8位。並みの選手であればこの時点であきらめてしまうところですが、2本目のルートはただ一人完登して総合3位に食い込み、きっちり全国大会出場権を獲得しました。以上3名が女子の代表選手となります。



選考会会場的美唄市体育センター

なお、今回は北海道ユース強化選手の選考会も兼ねて行いました。昨年度決めた強化選手のカテゴリーの他に、今年は急遽、ユースDも対象となる全国大会が開催される見込みとなったため、ユースDもユースCと同様に強化指定することになりました。強化選手については別紙の通りです。

大会の運営にご協力いただいたスタッフの皆様はこの場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。

大会の運営にご協力いただいたスタッフの皆様はこの場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。

北海道山岳連盟競技委員長 山納 秀俊

※ボルダリング、リードユース強化指定選手は北海道山岳連盟HPクライミング委員会のページに掲載。

## 選考会成績

### 【ユース女子】

1位 上原子音羽 派遣選手  
2位 酒井雪羽 派遣選手  
3位 吉田ゆな 派遣選手

### 【ユースD】

1位 山根力  
2位 下山士和  
3位 吉原花梨

### 【ユース男子】

1位 坂本大河 JMSCA 推薦  
2位 若宮楽空 派遣選手  
3位 藤原稜平 派遣選手  
4位 竹内悠真 派遣選手

### 【ユースC】

1位 吉田稀羅  
2位 岡山そら  
3位 野村虎聖

## 今後の諸行事(予定)

### 夏季遭難対策研修会

期日 令和3年5月29日(土)-30日(日) 会場 十勝岳、大雪青少年交流の家

### 夏山講習会 Part 2

期日 令和3年6月5日(土)-6日(日) 会場 恵山・海向山、野営

### 登攀研修会

期日 令和3年6月12日(土)-13日(日) 会場 小樽赤岩、宿泊未定

### 第76回国民体育大会北海道ブロック予選会(リード・ボルダリング競技)

期日 令和3年7月3日(土)-4日(日) 会場 北海きたえーる、グラビティサーチ札幌

### 夏山講習会 Part 3

期日 令和3年7月24日(土)-25日(日) 会場 石狩岳、野営

### 美瑛富士トイレブース点検パトロール

期日 令和3年8月1日(日) 会場 美瑛富士野営指定地

### 親子スポーツライミング教室(ジュニア登山教室)

期日 令和3年8月3日(火)-4日(水) 会場 ネイパル深川

### 第34回全道交流登山会「登別大会」

期日 令和3年8月28日(土)-29日(日) 会場 来馬岳ほか、サンライバスキー場

## 道岳連だより

北海道山岳連盟広報 No.9 1 令和3年5月5日発行

発行 北海道山岳連盟

事務所 札幌市白石区中央1条4丁目3-72-107

発行責任者 小野倫夫

編集担当(総務) 内藤美佐雄